

財政問題

問 各種基金の積立目標額は

答 過去の減額分の回復を図ったもの



篠崎 久美子 議員

【財政状況と今後の事業計画】

問

各種基金の積立目標額と、想定する取り崩しの場面は。

村長

過去の減額分を回復する程度に基金積立ができました。財政調整基金は国の政策影響も考えた運用を検討、義務教育施設整備基金は老朽化施設の更新等、福祉基金は介護や福祉施設整備負担増等を想定しています。

問

債務償還予定と事業計画は。

村長

地方債残高は22年度末で60億6200万円、

今年度償還予定額は7億900万円、新規発行債を除けば28年度末残高は29億2500万円、償還額は5億円を下回る予定です。現在の新規発行債は1億2000万円程度に抑制しています。第4次総合計画を基本とし、事業を計画的に進めます。

問

村内景気刺激策は。

村長

観光局を拠点に誘客対策への取り組み、特産品開発で農家所得安定、新規起業家への補助等を考えます。

問

老朽化と衛生面からトイレの改修は。

村長

改修は避けて通れないと思います。多額の費用が必要ですが、建物も含め優先的に解決を図りたいと考えています。

【グリーンスポーツ施設について】

グリーンスポーツ施設

問

AEDの設置状況と、建物や遊具の耐震性は。

村長

AEDは来年度に設置するように協議します。ハウスは耐震診断が必要な施設ですが、遊具は診断義務付けではありません。安全面からの全遊具の補修は完了しています。

問

歴史民俗資料館、古民家の利用状況と今後は。

村長

資料館の村民利用はほとんど無く、資料保存も望ましい状態ではありません。将来的には専門職の配置や、企画展示、講座開催などで誘客にもつながるものが必要と考えます。

【農業活性化について】

問

営農支援センターの業務内容、職員配置、設置場所の見直しは。

村長

業務は農家懇談会、栽培技術講習会の開催、



衛生面のイメージアップを!

その他事務処理等で、今年度は村職員1名、農協関係職員1名の配属、場所については総会で協議検討していきたいと思えます。

問

新規就農希望者への対応、農地幹旋、技術指導

村長

新規就農希望者は年間1名程度しかなく、農地幹旋は耕作放棄地防止から

問

特産品開発や地産地消については。

村長

関係団体と連携しブランド商品販売拡充に努め、顔の見える形の地産地消の推進が重要と考えます。